

よりそう



第22号

編集責任: 三好 (茨木にて)

ワイン 醸造施設を見る



貯蔵タンク



亜硫酸の含有量調査器具



12種類のブドウの栽培状況とワイン



ワインにして静置した後の沈殿物

3年ぶりに → 佐藤正市さんと再会 (現在遠野まごころネット代表)

＝ 柏木平レクリエーション (地下) ボドウ栽培の主任は、荒川さんで、ワイン製造の主任は小谷さんである。2016年は製造を長野県のワイリーに依頼したが、2017、今年小谷さんが醸造の責任者となって製造してゆく。岩手県の工業技術センターへ一年間通い、醸造技術と学び、2017年に初めてワイン醸造の免許を獲得。器具はイタリア製がほとんど(バックレー証券の援助で設置できたとのこと)で、国税庁の検査も厳しいとのこと。昨年1万1000本製造、完了したとのこと。今年は、2000本製造目標のこと。

陸前高田市街と上長部地区

(USBメモリーを紛失し、写真が載せられぬ)。ごメンササイ!

陸前高田市街は、巨大な土砂運搬コンベア(神戸で使われていたと同様のもの)は姿を消し、神社境内(高台)に登ってながめると、整然とした区画整理された造成地に新しい建物や住宅が建っている。見た目は、7年経って、元の姿に戻りつつあるな、と思うものの、商店街はどうなっているのか、二重ローンは残っているのか、仕事はどうなっているのか、大槌、釜石で感じたことと同じ事を思うが、本気で“元に戻りつつあるのか?”と聞いてみよう。

“奇跡の一本松”は観光地化しているようで一本松駐車場(道の駅?)存続しているが、ここから一本松を見学に行かぬ人々を多く見た。

★上長部地区

おなさんがバスで入って11が来た高架下をくぐると、後に三陸道の高い高架橋が架かっているのが見える。おなさんと11に木直えた麦火母は、今は利用されていないように見えた。製材所も置かれた木材の切り口を見ても新しくはなく、どうも休業している感じだ。バスが駐車した広場も1m位かさ上げされ、右横に高台へ上がる舗装路があり、上がるとおなさんと、住宅が建ち並んで来た。あれだけ多くのボランティアが参加した地区だが、ナンカ、コウ……。慰霊の木程も新緑読みかかると



陸前高田の様子を報告するため、大阪で作成。